

「人新生の資本論」を読んで

学際研究会

2021年6月4日

西澤信善

1 資本主義システムに内在する問題点

- 1 価値増殖を生産目的とする
- 2 人間の生存に不必要なものを大量に生産する
- 3 異常な経済格差を生み出している
- 4 南の貧しさは北の収奪、環境悪化による
- 5 地球の温暖化を招来し、環境を破壊している

2 現代は経営者資本主義

資本主義

資本家（出資者）資本主義

経営者資本主義

資本主義		
資本家（出資者）資本主義	特徴	経営者資本主義
未分離また不完全	資本と経営	分離
個人（資本家、出資者）	資本の出資者	機関投資家、銀行、生命保険、他の企業、一般投資家等
資本家（出資者） ワークーズ・コープ	生産の決定者	経営者（株主総会選出の取締役） 資本家でなければ労働者でもない
零細小中企業、商店、喫茶店、食堂 農林水産従事者、技能（理髪店、鍼灸針等々）、専門知識（医師、弁護士等々）	事業形態・規模	大企業、中企業 自動車、機械、金属、通信、電力
個人および従業員の生計	誰のための経営	ステークホルダー（資本主義）
	脱炭素経営	経営者→SDGs、機関投資家→ESG

3 SDGsはアヘンか

- 科学的社会主義 ⇒ 資本家資本主義 → 経営者資本主義 → 社会主義
- 経営者資本主義の時代は大企業が支配的であり、経営者の決定が社会全体に大きな影響を与える
- 共産党のいう野党連合政権（民主連合政府）の課題は、資本主義の弊害を是正すること。第一段階の民主主義革命
- 経営者資本主義の時代はかなり長く続く可能性 ⇒ 究極の体制？
- したがって、大企業中心に始まっているSDGsの取り組みを過小評価してはならない ⇒ 2050年にCO2の排出を実質的にゼロ

4 サウスの貧しさは北の収奪によるものか

- 植民地時代や1960年代頃まではそうしたことがみられた
- ただし、環境悪化の影響を受けていることは認める
- 現在では、北であれ南であれ、一国が貧しいのは**自国の中に矛盾がある**（民族や宗教対立、民主主義の未発達、誤った経済政策等々）
- 途上国で生産要素のうち決定的に不足しているのは**資本**である
- これを解決したのが先進国からの**海外直接投資（FDI）**である
- 東南アジアのいくつかの国はFDIをうまく利用して「東アジアの奇跡」を実現した⇒こうした考え方に反対したのが**新植民地主義**

5 コモンズの復活は潤沢な豊かさをもたらすか

- 中国の人民公社はまさにコモンズの復活を目指した運動ではなかったか
- 土地は生産隊の20-30戸の農家の共同所有、入会地、灌漑施設も共有、何を・どれだけ・どのようにしてつくるか、など生産をめぐる諸決定は皆で話し合っで決める
- 労働の配分、生産の分配などで不満（一平二調）→労働意欲の低下（働いても働かなくても同じ）
- 1980年代の前半に安徽省・鳳陽県の貧しい村から始まった自由化の一種である請負制度が広まり人民公社は解体された

6 生産目的は使用価値に変えられるか

- 資本主義の最大の特徴は価値増殖にある
- したがって、使用価値がないものでも価値を生み出す（儲かる）
ものは生産される→カジノは格好の例
- カジノを資本主義国でもなくすことは可能である。たとえば、日本は賭博は法律で禁止されている。しかし、特別法を制定して特定の区域で合法化した。
- 資本主義国でカジノをなくすため（すなわち生産目的を使用価値に変える）には社会運動と議会の議決が必要
- しかし、一般に使用価値がなくても儲かるものをなくすというのは資本主義ではほとんど困難→自由主義経済に反する

- すなわち、生産目的を使用価値に変えるというのは局所的な小生産者たとえば協同組合のようなものでないと無理
- 社会全体を自由主義から共産主義に変えるのは、革命でなく議会主義に頼るとすれば相当な時間がかかる。可能かどうか分からない（現実の社会主義がなぜうまくいかなかったのか検討の要あり）
- その間に人類の生存が危うくなるほど環境が悪化すれば、あるいはそうした事態が予想されれば人間は人口を減らして存続を図る（齋藤氏にかけているのは人口の視点）

7 所得格差について

- 資本主義の大きな矛盾の一つは、所得格差である
- 経済を自由にすれば不可避免的に所得格差は生じる
- それを是正するのは、**環境福祉国家(Environmental Welfare State)** の重要な政策目標である
- しかし、世界の巨大な富裕層が他方で貧しさを生み出しているという見方は間違い。つまり**彼らが富裕なのは誰かから富を収奪し、すなわち誰かを貧困化させて豊かになったわけではない。**
- 彼らが巨大な富を築いたのは、給与所得や役員収入ではなく保有する株式の値上がりである→ほとんどの場合創業者利得
- GDP（富）は一定のものでなく、際限なく膨らむものである。

8 バルセロナの試みを日本でも

- 日本版の「**フィアレス・シティ**」を
- **バルセロナ**の取り組みに注目しよう
- いま日本でも世界でも「**スマート・シティー**」の取り組みが始まっている
- 「**仮想発電所**」の取り組みは極めて興味深い

結論

- 大変興味深いですが、脱成長コミュニズムは局所的には可能であっても、社会全体を覆うのは困難と思われる。
- 社会的所有や自主管理は現実の社会主義をみても、それほどの成果を上げていないのではないか。
- コモンズに幻想があるのではないか。
- 議会主義のもとでは、一気に社会を変えることはできない。SDGsやESGもその意義を過小評価すべきではないであろう。
- 町づくりに関してはスマートシティのような取り組みも始まっている。